創学館 最終回 4点差逆転

冬場の鍛錬、同点打生む

敗戦濃厚の4点ビハインドで迎えた九回裏。創学館は連打で2点差に詰め寄り、なお2死二、三塁。一打出れば同点だ。代打でバットを握った渡辺士輝の脳裏には、先発入りが遠のく中、主力を目指して振り込んだ冬の日々がよぎった。

「自分を信じろ。やってきたことを信じろ」。まとわりつくような重圧をかき消した。

ハイライト

▽2回戦（米沢市営野球場第2試合）

米沢工 010 102 300 7
創学館 010 002 005 8×

（米）中沢優斗、阪野玲治―梅津和己
（創）今野凌哉、武田真東、渡辺壮太―高橋聡志

▽三塁打＝中沢優斗（米）武田真東、渡辺士輝（創）▽二塁打＝星亮汰、梅津和己（米）榊原広夢、榊涼、山川大翔3、芳賀健人2（創）

【評】なかなか追いつけなかった創学館が最後に劇的な逆転サヨナラ勝ち。九回に集中打を浴びせ、代打渡辺士と7番高橋の連続適時打などで4点差をひっくり返した。米沢工は14安打を放ってリードを保ちながら、得点機で畳み掛けられず、残塁は13を数えた。

〈米沢工―創学館〉 9回裏創学館2死三塁、7番高橋聡志の適時打で渡辺士輝（手前右）が生還し、サヨナラ勝ちを決める ＝米沢市営野球場

気持ちはバットに乗り移り、必死さは不安を打ち負かした。歯を食いしばり、狙っていた真ん中高めを強振。手応えはなかった。だが、中堅から右方向への長打を意識してスイングを重ねた冬場の成果は体に染み着いていた。「越えてくれ」。そう念じた打球は右翼手の後方で弾み、うっ屈した感情を吹き飛ばす同点三塁打となった。

次打者の安打でサヨナラの本塁を踏んだ渡辺の回りに、歓喜の輪が広がった。「皆の思いを乗せた、いいスイングだった」。試合後、矢萩茂監督はそうねぎらった。

地区予選を含め、サヨナラ勝ちは4度目。激闘を勝ち上がる中で、選手たちは自分自身や仲間を信じる心が育った。「山形電波工」からの校名変更に伴い、この春新しくなった校歌を笑顔で斉唱した渡辺は「俺たちが新しい歴史をつくる」と力を込めた。

【米沢工】

		打	安	点	振	球
⑥	坂野尚	3	1	1	0	3
④	安藤	5	1	0	3	0
⑨	大石	5	1	1	0	2
⑧	星	4	1	0	1	0
⑦	藤田	4	3	0	1	0
①	五十嵐	0	0	0	0	0
①	中沢	5	4	0	2	0
②	阪野	0	0	0	0	0
⑤	梅津	4	2	3	1	1
③	坂野功	4	1	1	1	1
③	伊藤	4	0	0	0	1
犠	盗	失	併	残		
3	2	1	0	13	3814	7 9 6

【創学館】

		打	安	点	振	球
⑤	石沢	5	2	1	1	0
⑨	榊原	4	2	0	0	1
⑦	木村	4	0	0	1	1
⑧	芳賀	4	2	2	0	1
⑥	山川	5	3	3	2	1
③	稲村	4	3	0	1	0
1H	渡辺壮	0	0	0	0	0
②	渡辺士	1	1	2	0	0
④	高橋	3	1	1	1	0
①	榊	4	1	1	2	0
①	今野	1	0	0	1	0
1 3	武田	3	1	0	1	0
犠	盗	失	併	残		
3	1	4	0	9	3816	7 10 2

投	手	回	打	安	振	球	責
中沢	7	32	11	9	1	2	
阪野	1	2/3	1	1	5	1	1 5
今野	3	1/3	15	4	6	0	1
武田	4	2/3	29	10	2	5	4
渡辺壮	1		3	0	1	1	0